



明けましておめでとうございます

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、創立50周年の節目を超え、新たに一步を踏み出した1年でした。5月にスーパー救急開設、12月には「べてるの家」講演会主催、その他にも様々な大きな挑戦を致しました。

堺市総合福祉会館で開催した「べてるの家」講演会には、300名を超える方がお越し下さり、大盛況のうちに終わることができました。加えて大変学びの多い講演会でございました。これもひとえに関係医療機関ならびに近隣の皆様のご協力のおかげと心より感謝致しております。

1月4日には、職員が一堂に会し新年を祝う互礼会を行い、心新たに新年のスタートを切りました。本年も停まることなく常に前に進んでいきたいと考えております。何卒本年も、ご指導、ご支援をお願い申し上げます。

また、皆々様のご健勝とご活躍を願い、本年が素晴らしい1年となりますように祈念致しております。



基本方針

人 権をたいせつにし、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・社会復帰・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の中核病院として、行政機関や病医院・地域の方々と協力し、保健・医療・福祉に貢献します。

信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

べてる講演会

12月15日18時より、当院主催、堺市の後援を頂き、堺東の堺市総合福祉会館にて、北海道浦河町の授産施設「べてるの家」の講演会を行いました。



障害者の授産施設や作業所は各地に多くありますが、そのユニークな試みで大きな成果と成功を収めているのが「べてるの家」です。日高昆布の生産、加工、販売で年商1億円。過疎化の進む浦河町の一産業になっています。元々は浦河日赤病院の精神科を退院した方々、精神障害を体験した回復者数名が教会の片隅で、地元日高昆布の袋詰の下請け作業を始めたのがきっかけです。立ち上げメンバーでもある浦河日赤病院精神神経科部長の川村敏明先生、現北海道医療大学教授の向谷地生良先生が、メンバーの健康面、生活面での強力なバックアップで現在も支えておられます。講演会は、川村先生、向谷地先生と、べてるの家のメンバーである鈴木真衣さん、沼尾美代子さんの4名が、べてるの家での活動や当事者ご自身の生活など、ありのままをお話しになりました。「べてるの家」の特長はメンバーが障害を持つことをそのまま受け入れ、自分のペースで働き、生きているということ、ご自身の幻聴、幻覚の体験を隠すことなくお話になります。

会場には車椅子の方など障害を持った方やそのご家族、そして医療関係者など大勢お越し頂き、300名を超える参加者がありました。質疑応答も活発で、最後に当事者の沼尾さんが「初めて大阪に来て」というところを何度も名古屋と間違われると、その都度会場から笑いが起こり、「阪南病院は広くてきれいな病院、大阪にも来てよかった」のあと「でも早く北海道に帰りたい」というコメントに大笑い。穏やかな雰囲気のまま閉会しました。

今回、べてるの家より川村先生、向谷地先生がお越しになりましたがお2人揃っての講演はとても珍しいようで、参加の方も熱心に聞いておられました。また、川村先生は移動の途中や控室などでよく携帯メールを見ておられましたが、患者さんやメンバーさんからのSOSは完全オンコールで、講演途中でもとられるとのこと。こういった関わりがメンバーを支える根底にあることに改めて感心しました。また、受付近くにてべてるの商品販売コーナーを設けましたが、書籍はもちろん、昆布商品が飛ぶように売れ、こちらも大好評でした。



はんなん寄席

11月30日(金)15:00から患者さんレクリエーションとして、はんなん寄席を行いました。当日はプロの囃家、大正琴演奏デュオ、マジシャンと多彩な取り合わせで楽しませてくれました。

院内での開催は好評の前回を受けて今回が2度目で、随分前から楽しみにされている患者さんが多数おられました。既に次回を期待している方もおり、よく笑い、しっかり楽しんだひとときでした。



機能評価への取り組み

当院玄関に、(財)日本機能評価機構の認定証を飾っているのをご存知ですか? 機能評価とは、第三者機関が、病院を評価するもので、約600項目をクリアして初めて、一定以上の水準に達している病院として認定されます。認定機関は5年で、更新審査を受けなければなりません。また、評価内容は、その時代や社会の要請に合わせ厳しくなります。

認定病院は、認定されることに努力し続けなければなりません。当院でもその一環として、定期的に院内のラウンドを実施し、社会が求める基準に達しているか確認をしています。具体的には、療養環境や医療安全、診療・看護・リハビリ機能など、細かくチェックします。快適な療養環境では、院内放送や携帯電話の使用ルールなど、療養環境を妨げていないかというところまで項目に入ります。

患者さんはもとより、来院される全ての方に満足して頂ける病院であるために、本年も努力をしてみたいです。お気づきの点などございましたら、「みなさまの声」BOXにご意見をお寄せ頂ければ幸いに存じます。

おすくりの飲み方と注意点

お薬の 飲み方と 注意点④

おくすりを飲むときは、たっぶりの水が湯冷まして！

水なしで服用すると、

薬が体の中で完全に溶けず、十分な効果があらわれません。少量の水で服用し、薬が食道などで止まってしまい、そこで薬が溶け出すと効果が減弱されるばかりでなく、潰瘍ができることもあります。

胃の中で、薬が速やかに溶け、薬の十分な効果を得るためには、薬と一緒に、水分をたっぷりとることが必要です。

「お茶、ジュース、コーヒー、牛乳などで「くすり」を飲んでもいいの？」

薬によっては一緒に飲んでもよいものもありますが、中に含まれる化学物質が薬の成分と化学反応を起こすこともあるため、お薬を服用するときは、最低コップ半分くらいの水が湯冷まして服用してください。

また、「くすり」を飲むときには、寝たままよりも、立った姿勢の方が効き方が早くなります。とはいっても・・・熱があつて寝込んでいるときにわざわざ立ち上げる必要はありませんが、せめて体を起こし、十分な量の水で飲むことにしましょう。その方が、「くすり」が気管支に入る心配もなく、安全だからです。

錠剤は、かみくだいて飲んだ方がよく効くの？

錠剤を細かくかみくだいたり、カプセル剤をあけて、中身だけを飲むという人がおられます。錠剤をかみくだいたり、カプセルをあけて飲んで、決して効き方が早くなったり、よく効くわけではありません。それどころか、危険な場合すらあるのです。それなら、危険な場合「くすり」の錠剤は、それぞれ目的を持って工夫して作られています。

とけやすいため
胃に障害を与えないため
少しづつとけるため
吸収されやすいため
胃ではなく腸で効くため
長時間効果が持続するため



などのため、表面を加工、コーティングするなどいろいろ工夫して作られています。

錠剤をかみくだいたり、カプセルを開けたりすると、せっかくの工夫が無意味になり、薬の効果がなくなり、かえって体によくない影響がでやすいためです。

「くすり」は特別な指示がない限り、かみくだいたりせず、そのまま飲みください。錠剤やカプセル剤が大きくて飲みづらいときは、くすりを違うタイプのものに替えてもらえるか相談してください。

「みなさまの声」BOXをご存知ですか？

現在当院では、患者様やお越しになる皆様のニーズに合った医療サービスを提供するため、ご要望やご意見を投書頂く「みなさまの声」BOXを設置しています。入院患者様へは、各病棟に、外来患者様やご家族様、ご来院の方々へは、外来待合にBOXを置いています。またデイケアや食堂などにも設置しております。頂いたご意見はしっかり受け止め、皆様にご満足頂けるよう、治療、看護に活かしてまいります。どうぞ、忌憚のないご意見をお待ち致しております。

喫煙場所のお知らせ

当院では、施設外の喫煙場所を以下3ヶ所設置し、完全分煙に取り組んでおります。趣旨ご理解の上、喫煙場所以外での喫煙はご遠慮ください。

- 施設外喫煙場所
- ① D棟隅
 - ② C棟自動販売機横
 - ③ 喫茶ひだまり横



院内

花

だ
よ
り

さざんか 光風緑

朝夕の寒さが堪える時節になりました。
こんな時期に咲く美しい花は凛としていてとても目を引くと思いませんか？
是非、院内通路及び遊歩道から花と緑の風景をお楽しみください。



つばき
椿科

学名 Camellia sasanqua

冬の彩りさざんかが美しい時期です。
開花時期は、10/10頃～翌2/10頃。
花の少ない晩秋から初冬にかけて、
朝夕の冷たい空気に誘われるように
咲き出します。

日本が原産地。江戸時代に長崎の出
島のオランダ人医師がヨーロッパに
持ち帰り西欧で広まりました。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土	
診 察	2 診	黒田	中井	中井	横田	黒田	横田
	3 診	和田	野村	和田	野村	横井	横井
	5 診	西側	一岩	植田	一岩	西側	植田
	6 診	西村	山田	西村	三秋	相馬	
	7 診	白濱	清水	白濱		清水	
睡眠外来	黒田	黒田・野村	野村	野村	黒田	黒田	
小児精神科外来	横田	横田		横田	横田	横田	
専門外来	往診相談 外来	女性外来	口腔心身症 外来	物忘れ 外来			

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・物忘れ・口腔)は予約制です
医療機関からの入院・転院のご相談は
地域医療連携室で承ります。

☎072-278-0381 ☎072-281-6615



診療科目

心療内科 精神科 神経科 内科

病床数

精神科救急入院病棟50床(C1病棟)
精神科急性期治療病床60床(E1病棟)
急性期病棟56床(C2病棟)
メンタルケア病床50床(E3病棟)
慢性期・リハビリ病床174床(B1,B2,E2病棟)
老年期精神病・痴呆病床120床(D1,D2病棟)
合併症病棟60床(D3病棟)
精神療養病床120床(F2,F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1
看護師比率70%以上・看護補助 10:1

関連施設ご紹介

訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム/こもれび・青空・つばさ・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 ☎072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 ☎072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 ☎072-277-9555

編集・発行 医療法人杏和会 阪南病院 地域医療連携室 総務課広報「光・風・緑」チーム